

(案)

第2次

潟上市子ども読書活動推進計画

平成30年 月

# 目 次

## 第1章 計画の策定にあたって

1. 趣旨	1
2. 国・県の動向	2
3. 計画の位置づけ	2
4. 計画の期間	3
5. 計画の対象	4
6. 目指す指標	5

## 第2章 子どもの読書活動推進のための具体的方策

### 基本目標1 家庭・就学前施設等・学校・図書館における

#### 子どもの読書活動の推進

(1) 家庭での読書活動の推進	6
(2) 就学前施設、子育て支援センターでの読書活動の推進	8
(3) 学校での読書活動の推進	10
(4) 図書館での読書活動の推進	13

### 基本目標2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実

(1) 読書活動の環境整備について	16
(2) 読書活動に関わるボランティアの育成と体制づくりについて	18

### 基本目標3 子どもの読書活動に関する普及・啓発と広報活動の推進

(1) 読書活動に関する理解と関心の普及・啓発について	20
(2) 読書活動に関する広報活動の推進について	22

用語解説	23
------	----



# 第1章 計画の策定にあたって

## 1. 趣旨

平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条で「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」とうたわれています。

しかしながら、インターネットやテレビゲーム等の普及や情報量の増加、情報の取得方法の多様化で子どもの読書離れが指摘されています。

平成25年に策定した「潟上市子ども読書活動推進計画」（以下「第1次計画」といいます。）では、未来に生きる子ども達が読書を楽しみ、読書習慣を身につけることができるよう、読書活動の充実と環境の整備を目標に様々な施策に取り組んできました。その結果、秋田県学習状況調査で「読書は好きだ」の質問に対し、「つよくそう思う」または「そう思う」と回答した潟上市の子ども割合は、増加傾向にあります。これは、第1次計画における多くの取組を地道に続けてきた結果とも言えます。

第1次計画から5年が経過し、平成30年3月末で計画された期間が満了するにあたり、これまでの取組の成果や課題を検証し、今後も継続的な取り組みを推進するために「第2次潟上市子ども読書活動推進計画」を策定し、次世代を担う心豊かな子ども達を育成するため、引き続き読書活動の充実と環境の整備に努めてまいります。

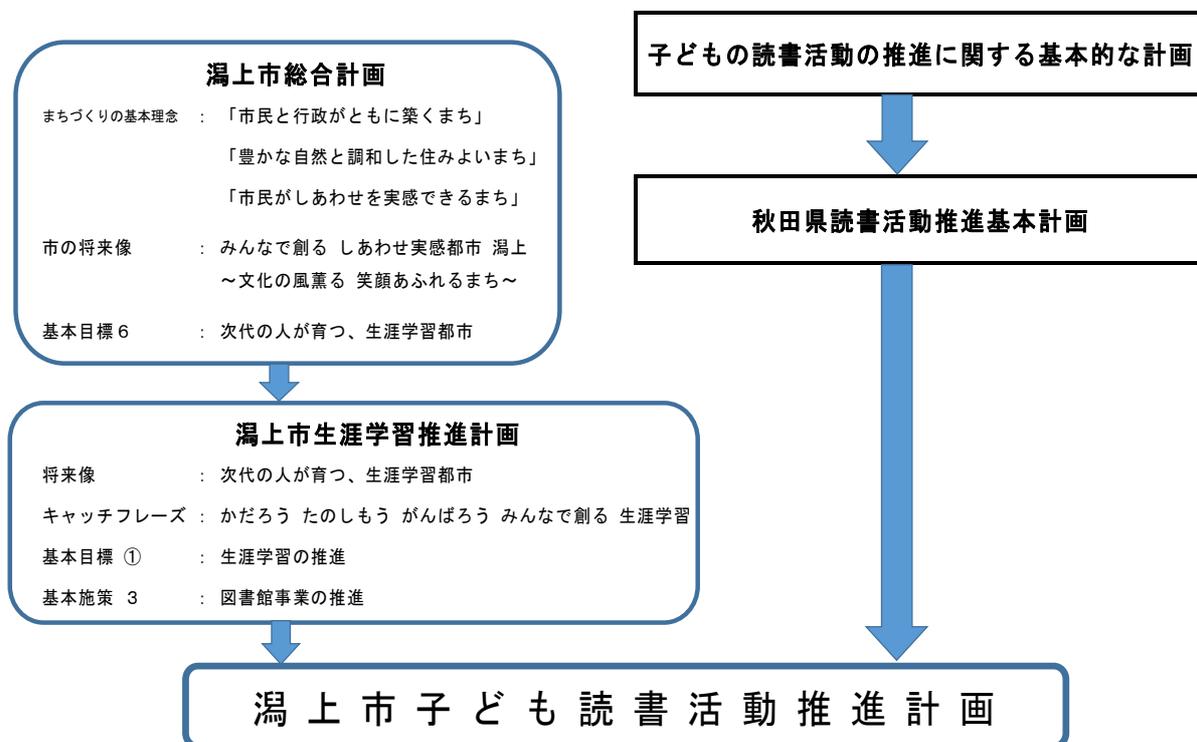
## 2. 国・県の動向

国においては、平成 25 年 5 月に「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画（第三次基本計画）」を策定し、家庭、地域、学校を通じた社会全体における取組や子どもの読書活動を支える環境の整備、子どもの読書活動に関する意義の普及を基本の方針とし、必要な方策を示しました。

また、秋田県においても、平成 28 年 3 月に「第 2 次秋田県読書活動推進基本計画」を策定し、生活の場に根付いた読書活動を推進するため、家庭、学校・職場、地域における読書活動の推進と県民協働による読書活動の推進を施策体系の 4 つの柱として、様々な取組を行っています。

## 3. 計画の位置づけ

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「秋田県読書活動推進基本計画」を基本にするとともに、「第 2 次潟上市総合計画」、「第 3 次潟上市生涯学習推進計画」の上位計画と整合性を図りつつ、各種の重要施策を策定します。



#### 4. 計画の期間

この計画の期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間です。

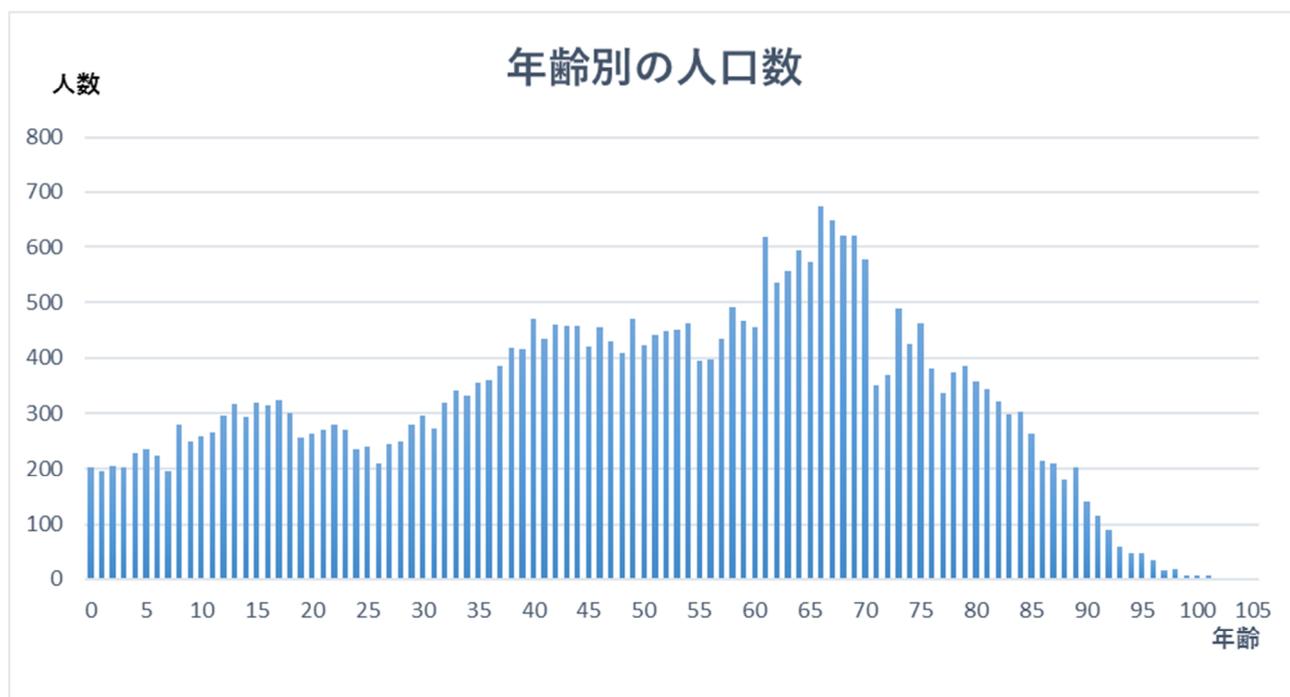
ただし、具体的な施策については、国及び県の動向を踏まえながら、必要に応じて見直しをするものとします。



※国の第四次基本計画と第3次潟上市生涯学習推進計画は、平成29年度中の策定となります。

## 5. 計画の対象

この計画の対象はおおむね 18 歳以下の子どもとしますが、家庭、学校、図書館、ボランティア等の子どもの読書活動と関わりのある市民や団体も対象とします。



年齢	男	女	計
0歳	97	106	203
1歳	96	100	196
2歳	105	101	206
3歳	95	107	202
4歳	133	96	229
5歳	115	121	236
6歳	117	106	223
7歳	107	89	196
8歳	148	131	279
9歳	136	113	249
10歳	150	108	258
11歳	140	125	265
12歳	149	147	296
13歳	161	156	317
14歳	153	141	294
15歳	157	161	318
16歳	164	149	313
17歳	171	152	323
18歳	157	142	299
合計	2,551	2,351	4,902
総人口	15,847	17,462	33,309

資料：市民課「年齢別人口調べ」平成 29 年 3 月 31 日現在

## 6. 目指す指標

第2次潟上市総合計画に準じ、以下の4点について達成を測るための指標とします。

達成度を測るための指標	単位	目標の方向	平成28年度	平成34年度
児童書の貸出冊数	冊	→	15,456	15,600
児童書の蔵書冊数	冊	→	33,711	34,800
団体貸出の件数	件	→	37	45
団体貸出の冊数	冊	→	311	370

【参考】第2次潟上市総合計画における指標

達成度を測るための指標	単位	目標の方向	平成26年度	平成32年度
図書館貸出冊数	冊	→	69,777	73,266
図書館蔵書冊数	冊	→	107,799	113,189

## 第2章 子どもの読書活動推進のための具体的方策

### 基本目標1 家庭・就学前施設等・学校・図書館における子どもの読書活動の推進

#### (1) 家庭での読書活動の推進

##### 現状と課題

●ブックスタート事業※<sub>1</sub>では、市の健康推進事業と連携し4か月健診時にブックスタートパック（絵本等）を配布して、乳幼児期から親子で読書の楽しさを体感し、家庭での読書活動の取り組みにつながるきっかけとなりました。図書館職員が保護者に直接パックを手渡しする際に、子どもの本の選び方や読み聞かせの手法など、保護者からの相談に応じるとともに、このような機会を通じて保護者に読書習慣形成についての理解と、家庭での読書環境を整えるため協力を得ることが重要です。

●わくわくブック事業※<sub>2</sub>では、図書館司書、学校サポーターや学校図書館支援員が選定した絵本の中から、子どもが読みたい絵本を1冊選び、小学校入学説明会時にプレゼントしました。自分自身で選んだお気に入りの絵本を保護者に読んでもらったり、友達と読んだり、じっくりひとりで読んだりすることで絵本への親しみと読書の楽しさを深めることができました。

●図書館司書、幼稚園・保育園関係者と子育て支援センター職員が選定した絵本をリスト化し、リーフレットを作成しました。子育て支援センターや男女共同参画センターに設置したり、ブックスタート事業で配布して保護者への読書活動推進のための情報提供に努めました。また、リーフレットを活用して本選びに迷っている乳幼児の保護者を支援しました。

ブックスタート事業

(単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
配布人数	—	393	212	188	207

わくわくブック事業

(単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
配布人数	—	—	278	198	224

今後の取組

■ブックスタート事業を通して、保護者に乳幼児期からの読み聞かせに対する理解と啓発を進めます。配布する絵本が第1子と同じにならないよう、第2子、第3子の際に選書を工夫します。

■保護者と子どもと一緒に読書を楽しみ、子どもの読書習慣の形成を支援します。

■子どもの本の選び方や読み聞かせの手法等について、保護者からの読書相談に応じ家庭での読書活動を支援します。

## (2) 就学前施設、子育て支援センターでの読書活動の推進

### 現状と課題

●全ての就学前施設（幼稚園、保育園、こども園等、以下「園」といいます。）で、幼稚園教諭や保育士による絵本や紙芝居の読み聞かせが積極的に行われており、乳幼児が季節や行事・発達段階に応じたおはなしに親しむ機会を多くもっています。園の絵本コーナーの充実や多様な読書活動を支援し、子どもと保護者が読書に親しむことを目的に、絵本等の図書資料の団体貸出（<sup>カタト</sup>Katato事業）※<sub>3</sub>の利用促進に取り組みます。

●徒歩または園のバスを利用して図書館を訪問し、子ども達が本にふれる機会をつくりました。絵本コーナーで、たくさんの絵本の中から読みたい絵本を自由に選び、読書の楽しみを知るきっかけとなりました。

●家庭での読書活動を推進するために、保護者へ園の絵本の貸出しを行いました。また、「園だより」等を通じて子どもが興味を持っている絵本を紹介したり、園での子ども達の読書活動の様子を伝えることで、家庭との情報共有を図りました。

●園行事の際、保育士が保護者に絵本の読み聞かせを行っています。保護者自身に読み聞かせの楽しさを味わってもらうことで、家庭での読み聞かせ活動につながるよう保育士の読み聞かせを支援しています。

●保育者の読み聞かせの技術向上を図るための研修参加や、保護者からの本の相談に対応できるよう、情報収集に努めました。

●子育て支援センターでは図書館と連携し、人材バンクを活用して読み聞かせ事業を推進しました。また、絵本の選び方・楽しみ方などについて啓発事業を行い、家庭で子どもが本に親しむ経験を持てるような機会を提供しました。

## 今後の取組

■園では、毎日の活動の中で絵本や紙芝居を活用した保育実践を実施していくとともに、絵本の読み聞かせ活動を推進していきます。

■多様な読書活動の機会をつくるため、絵本等の図書資料の団体貸出(Katato 事業)の活用や園児の図書館訪問等、公共図書館と園との連携・協力を図ります。

■図書館で行われている読み聞かせ会の情報を、園や子育て支援センターを通して保護者への周知を図り、参加を呼びかけます。

■園での読書活動の様子や絵本に関する情報を保護者へ伝え、家庭での読み聞かせ活動が推進されるよう、読書に関する情報を提供します。

■家庭での読み聞かせ活動につながるよう、親子で読み聞かせの楽しさを味わう機会をつくるため、子育て支援センターと連携して読み聞かせ事業をすすめます。

### (3) 学校での読書活動の推進

#### 現状と課題

●各学校ではそれぞれの特色を生かしながら、読書に関する多様な活動を通して読書の楽しさを伝え、子どもの自主的・自発的な読書活動の推進を図りました。また、全ての小中学校で朝または昼の一斉読書活動を継続して実施しました。継続的な実施により定着しており、今後も継続して取り組んでいきます。

●学校サポーターや学校図書館支援員※4が児童生徒へのレファレンス（お薦めの本の紹介や求められている資料、情報の提供）や学習支援を行っています。児童生徒に対し読書に親しむきっかけを与えることで、学校図書館の利用を促進し、「学習・情報センター」や「読書センター」としての役割を果たすため大きな力を発揮しています。

●新着図書の案内や季節に合った学校図書館の環境作りを行うことで、児童生徒が利用したくなるような明るく親しみやすい学校図書館になるよう工夫しています。その結果、児童生徒が学校図書館に通う回数が増え、読み上げ冊数も増えてきています。

●教諭や学校サポーター・図書館支援員とともに、図書委員会が中心となり子ども自らが読書活動の推進を行うことにより、子どもにとって身近な図書館づくりを進めています。

●児童生徒の読書活動を支援するために、教員と学校サポーター及び学校図書館支援員の校内協力体制を確立するとともに、公共図書館と連携を図り情報共有ができる機会が必要です。

●学校サポーターや学校図書館支援員が図書の受け入れや貸出し、さらには図書の相談に対応するなど、学校図書館の環境整備や児童生徒の読書活動の推進に努めており今後も役割の重要性が増しています。

●全ての小中学校において、文部科学省が示している学校図書館図書標準※5の蔵書達成率が向上しました。

●団体貸出（Katato 事業）を活用し、小中学校の学校図書館の支援を行い、児童生徒の読書活動推進に貢献しました。

各学校の蔵書数及び蔵書達成率

区 分	学校名	平成28年度末			
		学級数 (学級)	標準冊数 (冊)	蔵書数 (冊)	蔵書 達成率 (%)
小学校	天王小学校	17	9,960	8,568	86.0
	出戸小学校	9	6,520	6,803	104.3
	東湖小学校	7	5,560	5,232	94.1
	追分小学校	14	8,760	7,790	88.9
	大豊小学校	13	8,360	8,223	98.4
	飯田川小学校	6	5,080	5,080	100.0
中学校	天王中学校	14	11,680	7,183	61.5
	天王南中学校	13	11,200	9,032	80.6
	羽城中学校	12	10,720	10,093	94.2

資料：学校教育課

## 今後の取組

■全ての小学校・中学校で実践している一斉読書や、「読書週間」等に関連した活動の充実に努め、児童生徒の読書意欲を高めるとともに、読書習慣の更なる定着を図ります。

■学校生活において児童生徒が楽しく読書をし、好きな本を選べるような展示や飾り付けなどの工夫に努め、読書環境の充実が図られるよう支援します。

■学校図書館の蔵書について適切な廃棄や買い替えを行い、蔵書数の増加や良書の充実が図られるよう支援します。

■公共図書館、学校サポーター、学校図書館支援員が連携し、情報共有できる機会を設けます。

■児童生徒の読書の量を増やすことのみならず、関係職員の資質向上につながるよう積極的に研修へ参加するよう呼びかけます。

#### (4) 図書館での読書活動の推進

##### 現状と課題

●小学校の授業における図書館見学を積極的に受け入れ、図書館の利用促進を図りました。図書館のしくみや本の楽しさを体験してもらえるよう学年に応じた活動表を作成し、実施しました。子ども達に図書館の役割や利用の仕方等について分かりやすく解説し、読書への興味、図書館への関心を高める工夫が必要です。

●子ども達が読書に親しむようになるためには、子どもと本を結びつける役割を持つ図書館司書が、専門知識と技術や経験を深めることが必要不可欠です。図書館司書職員の資質や技能の向上を図るため、研修等に積極的に参加し、児童サービス技能の専門性を高める努力が必要です。

●大型絵本リストや貸出し図書リストを作成し、園や小中学校、児童館へ配布し、図書資料の団体貸出（<sup>カタト</sup>Katato事業）の利用を促進しました。団体貸出は学校行事等と関連があることから、学校図書館との協力体制が必要です。

●定期的な読み聞かせ会の実施により、子どもにおはなしの楽しさを伝え、本にふれるきっかけづくりをしました。これまで図書館に来たことがない保護者にも、子どもと一緒に図書館へ足を運んでもらえるような働きかけが必要です。

●読み聞かせサークルに講師を派遣し、読み聞かせのスキルアップ（技術向上）に努めました。また、子どもの読書に関わる人々に役立つ実用的な資料や理論的な資料等を積極的に収集し、提供しました。さらにエプロンシアター<sup>※6</sup>、大型絵本、音響機材など読み聞かせで使用する物品等を貸出し、活動を支援しました。

児童書の蔵書冊数

(単位：冊)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
蔵書冊数	33,466	33,393	33,238	33,711	34,302

児童書の貸出冊数

(単位：冊)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
貸出冊数	13,112	17,931	17,236	16,003	15,456

図書館での読み聞かせ会の実施

(単位：回)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
実施回数	18	15	14	14	21

図書資料の貸出 (カタト事業)

(単位：件、冊)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	—	22	51	597	37
冊数	—	253	729	1,748	311

読み聞かせサークルへの講師派遣回数

(単位：回)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
派遣回数	12	12	12	12	10

## 今後の取組

- 図書館見学を積極的に受け入れ、本に興味を持ってもらうことで読書意欲を高め、図書館の利用につなげます。
  
- 図書館司書をはじめとする職員が専門的な知識と実践を深めるため、積極的に研修会等に参加して資質向上に努めます。また、職員全員が研修の成果を共有できるような体制をつくります。
- 図書資料の団体貸出（<sup>カタト</sup>Katato事業）の積極的な活用を図ります。
  
- 読み聞かせ会の開催について、広報や館内掲示、チラシ等を配布して周知します。
  
- 講師の派遣や研修会への参加を呼びかけることで、読み聞かせのスキルアップをはかり、読み聞かせサークルの活動を支援します。

## 基本目標2 子どもの読書活動を推進するための環境整備の充実

### (1) 読書活動の環境整備について

#### 現状と課題

●子ども達が本に親しむには「読みたいもの」「読めるもの」が、いつでも子ども達の身近になくってはなりません。人気の本や話題の本にとらわれず、幅広い蔵書構成になるよう努め、日々の読書のための本や学習活動に役立つ資料などを整備して、いつでも新鮮で魅力ある蔵書構成を維持できるよう心がけました。

●読み聞かせを中心とした各種事業の開催や、家族での読書週間の構築のために「はじめよう家族で読書コーナー」の設置、読書離れが進む中高生向けに「ティーンズコーナー」などを設けて、様々な読書に出会う場を提供しました。

●子育てや食育等に関する保護者向けの本を絵本コーナーに置くことで、保護者の図書館利用につながり、図書館が家族で気軽に出かけられる場所のひとつとなるよう配置等を工夫しました。

●絵本コーナー・児童コーナー・ティーンズコーナーなど、各コーナーについて表紙を見せるディスプレイの工夫や本の内容紹介など、興味を持ってもらうよう年代に応じて各種コーナーの設置に取り組みました。

●全国学校図書館協議会が推進する「よい絵本」や、秋田県が推奨している「マザーズタッチ文庫」「家族で読書おすすめ50選」などを図書館内に掲示、設置し、本に関する情報を提供しました。

## 児童書の蔵書冊数

(単位：冊)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
蔵書冊数	33,466	33,393	33,238	33,711	34,302

### 今後の取組

■貸出し状況や人気の本、その他の様々な情報を絵本コーナー等で発信し、さらに読書活動に親しめるよう環境づくりに努めます。

■テーマに沿った本を集めた企画展示を行い、季節や時事を考慮した子どもの興味をひくテーマを設定して本との出会いの場を作ります。

■乳幼児期に家庭で培われた読書習慣を継続するため、読書量が落ちる小学校高学年から中学生、高校生までもを対象とする蔵書の充実を図ります。また、子どもの読書意欲を高め、知的好奇心を満たす様々な資料を収集し、蔵書の充実にも努めます。

■読書離れがすすむ中学生、高校生向けにティーンズコーナーの更なる充実を図り、本を手に取りやすいように配架や展示を工夫します。

■利用頻度や資料の重要性などを考慮し、書庫移動や除籍などを適切に行い、利用しやすい配架になるように努めます。また、痛みが激しく買い換えが必要な図書（永く読み継がれている作品など）は更新し、ベストセラー本等について複本化にも努めます。

■子どもや保護者から、本の探し方や選び方や読み聞かせの仕方等、いろいろな読書相談に応じ、読み聞かせ会の日程やイベントの紹介等、子ども読書活動に関する情報提供機能を併せ持つ「子ども読書相談窓口」を図書館カウンターに設置します。

■読み聞かせ会をはじめとした子ども向け行事を充実させ、子どもが読書を楽しめる機会を提供します。また、案内方法を工夫し、図書館利用に不慣れな保護者や子どもにも参加してもらうよう努めます。

## (2) 読書活動に関わるボランティアの育成と体制づくりについて

### 現状と課題

- 読み聞かせサークルに講師を派遣し、読み聞かせのスキルアップ（技術向上）に努めました。
  
- 子どもの読書に関わる人々に役立つ実用的な資料や理論的な資料等を積極的に収集し、提供しました。さらにエプロンシアター、大型絵本、音響機材など読み聞かせ会で使用する物品等を貸出し、活動を支援しました。
  
- 市広報で読み聞かせサークルを紹介し、サークル活動について市民に周知を図り、加入を呼びかけました。
  
- 新規サークルの立ち上げについての支援や、既存のサークルによっては会員数の減少も見られることから、新たな会員の募集に努める必要があります。
  
- ボランティア活動の場を広げるとともに、子どもの読書活動を推進するため、小学校や中学校、子育て支援センターからの依頼に応じて、人材バンク等を活用しておはなしボランティアを派遣します。

読み聞かせサークル数と会員数

(単位：数、人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
サークル数	3	3	3	4	3
会員数	29	31	28	33	31

今後の取組

■ボランティアのスキルアップ（技術向上）を図るため、必要な技術や知識を習得する機会や情報の提供に取り組みます。

■館内掲示や広報等を活用して、ボランティア団体の活動を広く周知します。また、活動に興味を持った人を団体に紹介し活動の輪を広めます。

■ボランティア団体同士で情報交換や連携を行い、図書館のボランティア組織構築を検討します。

■ボランティア団体から図書館に対して行事の提案や相談をしやすい環境づくりに取り組みます。

■中学生や高校生の図書館利用を図るため、ボランティア体験等の参加を促します。

### 基本目標3 子どもの読書活動に関する普及・啓発と広報活動の推進

#### (1) 読書活動に関する理解と関心の普及・啓発について

##### 現状と課題

●映画上映会を開催して、上映作品に関連した本を紹介し、読書活動へとつなげました。図書館へ来館する機会をつくり、あわせて子ども達に図書館の役割や利用方法など情報を提供することにより、子ども達の読書意欲を高揚させ、本に興味をもってもらうきっかけとなりました。

●高校生の職場体験を活用し、生徒が作成したおすすめの本の紹介POP<sup>ポップ</sup>（キャッチコピーや説明文、イラスト等を手書きしたもの）と選書した本の展示コーナーを作るなど、同世代が共感を持てるような、また本が読みたくなるような企画展示をしました。

●読書紹介ポスター作品募集事業「私がおすすめしたい本」※7を継続的に実施し、完成したポスターを市内の施設や小中学校、県内の図書館へ配布・掲示しました。児童生徒数の減少等で応募数が年々減少傾向にあります。

●「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」等※8に合わせ、おすすめ図書の企画展示や読み聞かせ会を開催し、読書活動の啓発をしました。

映画上映会の開催回数と参加者数

(単位：回、人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
上映回数	3	3	3	3	3
参加者数	132	125	91	157	187

読書紹介ポスター作品募集事業「私がおすすめしたい本」の応募者数 (単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
応募数	1,138	1,989	1,834	1,813	1,722

今後の取組

■読書週間のイベントや映画上映会を利用して、図書館の役割や利用方法などを知らせる機会を提供します。

■読書通帳など新たな図書館利用のきっかけとなるような方策について検討します。自分の読んだ本が目に見えるような読書履歴があることで、読書意欲を高め、図書館利用の促進を図ります。

■読書紹介ポスター作品募集事業「私がおすすめしたい本」などを通じて、読書の楽しさや本の魅力を発信し、子ども同士で本に親しむきっかけづくりとするため、広く応募を呼びかけます。

■「こどもの読書週間」や「読書週間」に合わせ、子どもが参加できる事業を実施して、読書活動に対する機運が高められるよう啓発に努めます。

■県立高校や県立支援学校の児童・生徒の読書への関心を高めるため、関係機関と連携し、読書普及活動の実施を検討します。

## (2) 読書活動に関する広報活動の推進について

### 現状と課題

●市広報を通じて、図書館での企画展示や小中学校での読書活動の取り組みについて紹介しました。また、読み聞かせサークルの活動を紹介し、新たな会員の加入を呼びかけました。

●図書館内にポスターを掲示したり、園にチラシを配布して読み聞かせ会の開催を周知し、参加を促しました。

●園だより等で子どもが興味を持っている絵本を紹介し、子どもたちの読書活動の様子を周知しました。

### 今後の取組

■市広報などに図書館や読書に関する情報を掲載し、図書館の利用啓発や情報発信に努めます。また、園や小中学校での読書活動の取り組みについて随時紹介します。

■親子で本にふれあえるよう、保護者に対して様々な機会を通じて読書を啓発するとともに読書情報を発信します。

■市広報などに図書館や読書に関する情報を掲載し、図書館の利用啓発や情報発信に努めます。

■子どもの読書活動の推進を目指す先進事例などの情報収集を図り、それらの情報を各関係機関や団体に提供していきます。

## 用語解説

### ※1 ブックスタート事業

「Share books with your baby!」（赤ちゃんと絵本を開く楽しいひとときを分かち合う）をキャッチフレーズに、1992年にイギリスで始まった活動。日本では2000年の「こども読書年」を機に、この活動が紹介された。

### ※2 わくわくブック事業

図書館司書等が選定した絵本の中から、子ども自身が読みたい絵本を1冊選び、小学校入学説明会時にプレゼントする事業。

### ※3 団体貸出（<sup>カタ</sup><sup>ト</sup>Katato事業）

「<sup>カタ</sup><sup>ト</sup>潟上市図書館」、「<sup>カ</sup><sup>タ</sup>借りよう <sup>タ</sup>たくさん <sup>ト</sup>図書館の本を」から、親しみを持ってたくさん利用してもらえるよう図書館の団体貸出しを「Katato 事業」と呼んでいる。

保育園や幼稚園、各学校や児童館等に対し、図書資料を100冊までを1カ月以内で貸し出し、その団体内で活用してもらう事業。

### ※4 学校サポーターや学校図書館支援員

学校図書館法第6条でうたわれている「学校司書」のこと。自治体によって呼称はさまざまである。潟上市の場合、小学校で活動している者を「学校サポーター」、中学校で活動している者を「学校図書館支援員」と呼んでいる。

※5 学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたもの。

小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3~6	3,000+520×(学級数-2)
7~12	5,080+480×(学級数-6)
13~18	7,960+400×(学級数-12)
19~30	10,360+200×(学級数-18)
31~	12,760+120×(学級数-30)

中学校

学級数	蔵書冊数
1~2	4,800
3~6	4,800+640×(学級数-2)
7~12	7,360+560×(学級数-6)
13~18	10,720+480×(学級数-12)
19~30	13,600+320×(学級数-18)
31~	17,440+160×(学級数-30)

※6 エプロンシアター

舞台に見立てた胸あて式エプロンに物語の背景とマジックテープを縫い付け、演じ手がポケットから人形を取り出してエプロンに貼り付けながら物語を演じる人形劇。

※7 読書紹介ポスター作品募集事業「私がおすすめしたい本」

潟上市内の小中学生や一般市民から寄せられた読書紹介カードをポスターにして、読書活動を啓発する事業。平成14年度から始まり、完成したポスターは県内の図書館や市内の事業所、小中学校等に掲示されている。

※8 子ども読書の日やこどもの読書週間等

制定日	事業名	国・県・主催団体
4月23日	子ども読書の日	国「子どもの読書活動の推進に関する法律」第10条
4月23日から5月12日	こどもの読書週間	公益社団法人 読書推進運動協議会
10月27日	文字・活字文化の日	国「文字・活字文化振興法」第11条
10月27日から11月9日	読書週間	公益社団法人 読書推進運動協議会
11月1日	県民読書の日	秋田県読書活動推進本部 平成26年制定